

佐久市志 歴史編(三) 近世 目次

口絵写真

発刊のことば

監修にあたつて

刊行にあたつて

例 言

佐久市志刊行会長 三浦 大助

監修者 木村 碩
編纂委員長 大井 隆男

序 章 近世の展望

近世的支配体制の成立／近世村落の形成と変化

農業の発展と農民闘争／諸営業の発達と豪農・貧民

小作騒動と村の改革／民衆文化の高まり／
幕末の政情と佐久

第一編 近世前期

第一章 領主と村

第一節 佐久一郡逃散

一 依田康真の藤岡転封 二二

徳川家康の五ヶ国支配／依田氏の藤岡転

出／めまぐるしくかわる領主

二 仙石秀久の苛政と佐久一郡逃散 二六

小諸城の大改修／地方取りたての家臣たち／文禄・慶長の貫高検地／年貢と課役

／佐久一郡逃散

三 農村の立て直し 三四

秀久から忠政へ／還住策の推進／肝煎納

めの成立

第二節 甲府徳川領と諸領

一 甲府徳川領 六六

甲府徳川領の成立と拡大／家臣団と地方

知行／代官と陣屋

第二節 寛永総検地

四〇

二 諸領の推移 九〇

一 佐久一郡支配から分割支配へ 一〇〇

徳川忠長領の成立／松平忠憲と忠利／幕

府領の新設

二 寛永の領内総検地 一〇一

貫高から石高へ／忠長領の検地／幕府領

の改め検地／忠憲領の検地と無地高／寛

永検地と本高

三 寛永期の年貢負担 一〇三

寛永六年検地以前の年貢／厘取法から反

取法へ／村請制の確立

目 次

館林徳川領／小諸領の推移／坂木藩・高 滝藩板倉氏領	四 浅間山麓入会	一七〇
寛文・延宝の再検地と新田検地／甲府徳 川領の石代納／甲府徳川領の江戸回米／ 甲府領給地・板倉領の年貢	三 檄地と年貢	二七〇
南木山入会／長倉入会山	五 林野の利用	一七一
入会林野の利用／自生林と植林／内野と 御林	第二章 山・水	
第一節 入会林野	第一節 用水と新田開発	
一 山手年貢と御林	一 用水堰の開削	一七二
二 西山入会	二 用水堰の開削／安原用水／常木・三河田 堰の開削／野沢堰と八か村	一七三
西山入会／四二か村入会山の確定／四二 か村入会實行と出入／小田切入会山／八 郡入会山	二 新田開発と新田村	一七六
志賀湖の干拓／香坂新田／佐左衛門新 田／下県新田／相浜新田／杉山新田／大 沢新田／桜井新田	第三章 村のなりたち	
上州西牧入会山と山錢／内山と志賀入会 山／平尾山周辺の入会山	第一節 村のしくみと村政	
一 村役人	一 村役人	二〇五

村方三役の成立と役割／村役人層の系譜

／名主と村財政

士農工商の身分支配／村の諸階層

二 本百姓と抱百姓 三四

二 五人組・宗門改めと村 三七

五人組帳と「五人組帳前書」／五人組の構成員／宗門改めと百姓

本百姓の系譜と性格／本百姓の土地所有と経営／譜代の下人／抱百姓の系譜／地

三 村方騒動 三一

本百姓と小百姓の自立／村方騒動

主経営と小作

三 被差別部落 三五

「うへをみな」／近世部落の成立／「かわた」から「えた」へ／差別意識の確立／部落の生活／非農業民と差別

一 近世の身分制度 三五

第二編 近世中期

第四章 領主の政治と財政

邑中の藩主の動向／岩村田陣屋

二 領政 二一

第一節 岩村田藩 二三

領村の概要／地方支配機構と法令／領内法度／分知・旗本知行所

一 藩政 三三

三 貢租と財政 三〇一

藩主と家臣團／江戸屋敷／参勤交代／在

貢租制度／藩財政の推移

第二節 田野口藩 三三

一 陣屋と領政 三三	藩主／家臣団／三塚陣屋から田野口陣屋 へ／地方支配と代官
二 貢租と財政 三七	知行高／検見取と定免／苦しい藩財政
第三節 小諸藩 三四	藩主と家臣団／藩政の展開
一 藩政 三四	一 藩政 三四
二 貢租と財政 三九	二 貢租の制度／藩財政
第四節 旗本知行所 五三	第三節 旗本知行所 五三
一 下県知行所 五三	一 下県知行所 五三
二 高野町知行所 五六	二 高野町知行所 五六
領主と成立事情／陣屋と地方支配／貢租	領主と成立事情／陣屋と地方支配

三 根々井知行所 五二
成立事情と地方支配／貢租と財政

四 寺社領 五七
寺社領のなりたち／龍雲寺領／龍雲寺堰

三 根々井知行所 五二
成立事情と地方支配／貢租と財政

四 寺社領 五七
寺社領のなりたち／龍雲寺領／龍雲寺堰

第五節 幕府領 五三

一 陣屋と代官 五三

移りかわる陣屋／御影陣屋の成立と支配
地／中之条陣屋

二 農政と貢租 五二

農政に関する法令と勸農／石代納／定免
制の導入／明和の回米令と訴願／林年貢
と運上・冥加

三 松本預所 五三

松本預所の成立と解消／平賀陣屋の支配

四 安永の新田検地 元七

新田検地の施行／安永検地と百姓

第五章 産業の発達と商品流通

二 酒造業 四元

初期の酒屋／酒株と運上／工場制手工業

への転換

三 諸職人 異元

村の職人／鑄物師

一 用水堰と溜池 異五

濁川流域の灌漑／小堰の開削と畠田成／
溜池の利用

二 切添・切開 四二

切添・切開の進行と検地／上桜井村山畠
／割地制度

三 畠烟作物の変化と農法 四四

稻の品種と稻作／畠作物

四 肥料と農具 四九

施肥と病害虫駆除／農具

第二節 諸産業の展開 四四

第六章 街道と峠道

一 千曲川の漁 四四

庶民の蛋白源／千曲川の漁業権／千曲川
の漁法

第一節 中山道 四三

一 中山道の成立と岩村田宿 四三

中山道宿駅の成立／岩村田宿の成立

第一節 農林業の発達 異一

二 用水堰と溜池 異一

濁川流域の灌漑／小堰の開削と畠田成／
溜池の利用

三 諸職人 異五

村の職人／鑄物師

二 商業の発達 四四

一 市と商人 四四

岩村田の商人と市／野沢の市と商人

二 米穀の流通 異一

払米・回米／上州出米と穀商人

三 村の金融 異一

地主の金融／質屋稼業／無尽

四二

四六

四七

四八

四九

二 岩村田宿の機構	四七二
宿方と領主・村方／伝馬屋敷／伝馬勤め	
方の変化／問屋と問屋場／宿の經營	
三 岩村田宿の町屋	四三
町並み／旅籠屋と本賃宿	
四 助郷制度の変遷	四六
助郷制度の発足以前／助郷制度の発足／	
助郷減免と増村運動	
五 中山道千曲川往還橋組合	四五〇
中山道千曲川往還橋／千曲川往還橋組合	
の結成／往還橋普請と橋組合	
第二節 佐久甲州道	四七
一 佐久甲州道の成立と運輸	四七
佐久甲州道の成立／甲州道の道筋／馬継	
場と繼ぎ荷／脇道出入	
二 野沢宿	五五
野沢宿の機構／貨客の継立て	
三 野沢原橋	五六

五六

野沢原橋の規模／橋の保守と通行の確
保／野沢原橋組合／橋組合出入

第三節 千曲川の利用	五三
一 木材の川下げ	五九
急流千曲川のさ流し／善光寺用材の川下 げ	
二 川下げ出入	五四
薪川下げ出入／筏通船出入／橋用材川下 げ出入／水戸御用材川下げ出入	
第四節 峰道の利用	五二
一 上信の峰道	五四
米の道・生活物資の道／おもな峰道	
二 日影通りと入山峠	五三
日影通りの村々／入山峠	
三 志賀越えと日影新道	五九
志賀越え／日影新道の利用／日影新道の 登場／麻荷物と出入	

第五節 村の道 王七

川除普請の規模と技術／自普請と御入用
普請／国役普請

一 村の道 王七

村の道のなりたち／暮らしの道／渡川

二 信仰の道 王七

寺社参詣の道／巡拝の道／六部と施行宿

二 川境論 王三

川境論の発生と解決／下中込村と原村の
川境論／持添新田の成立／下中込村と跡

第七章 災害と騒動

部村の川境論／下中込村と跡部・桜井村
々の川境論／岩尾村と下県・今岡両村の
川境論

第一節 餓饉と水害 王一

一年貢高の変動と餓饉の発生 王一

年貢高の変動／寛永の餓饉／延宝の飢

饉／元禄・享保の餓饉

二 戻の満水 王三

千曲川水系の被害／太田部村の惨状／滑

津川流域などの被害

第八章 村と町の生活

第三節 宝曆田野口騒動 六六

一 騒動の経過 六六

田野口村の訴願／領下への拡大／吟味の

強行

二 騒動の意義と影響 六六

いわゆる箱訴状について／挫折した騒動

六六

第二節 川除普請と千曲川地境論 王三

一 川除普請 王三

六七

一 本百姓・抱百姓・奉公人	六七
階層分化の進行／本百姓の動向／抱百姓 の上昇／奉公人	
二 地主の成長	六八
地主の系譜／手作大地主／手作地主の經 營／地主の成長／地主と小作人／小作料	
第三節 村の運営	六九
一 村方騒動と村役人	六九
村の仕置権と村役人／有力百姓家の支配 権争い／小百姓による村方騒動／面割か ら高割へ	
二 村役人の変化と村定	七〇
年番名主制の成立／村方三役の成立／村 定	
三 村の財政	七〇
村入用をめぐる村方騒動／村入用帳の成 立／村入用の実態	
第四節 強まる差別と新しい人間関係	七一
一 差別の強化	七一
元文の身分差別令／ぼんぼく一件と差別 意識／牢抜け一件と牢番逐電／差別の微 細化	
二 被差別部落の生活と信仰	七六
部落の人びとの生活／差別戒名と信仰／ 人口の増加と部落の変化／新しい人間関 係と権利要求	
一 戸口・家族構成の変化	六六
戸口の変化／土地所有と家族構成	
二 衣・食・住	六六
階層と住宅／衣類の変化／食生活の変化	
三 家と同族団	六九
家／家訓・家法／同族団と村	
四 農民の一年と一生	七九
遊び日の増加／村の娯楽／農民の一生	

第九章 近世の文化

目 次

三 観音信仰 七一
観音巡拜／観音靈場の移し

第四節 医薬と民衆 七一

一 医薬と醫師 七四
さまざまの病氣、敬忠の場合／薬種の普

及と民間醫療・家伝薬／村醫師の誕生／
醫師の村方引き請けと村役人の醫療

二 流行病と医療 七四
飢餓と流行病／痘瘡と痘瘡神／コロリの
流行と退散祭り

一 神社と祭礼 七七

二 伊勢講のひろがり 七七

三 医師による医療 七六

第四節 近世の学問 七六

一 寺小屋・私塾 七六

二 文字と民衆／寺子屋の成立と普及／寺子
屋での学習 七六

第一節 信仰のすがた 七七

一 寺院の系列／寺の經濟／壇那寺と壇徒
及と民間醫療・家伝薬／村醫師の誕生／
醫師の村方引き請けと村役人の醫療

二 修驗 七七

三 法華堂／村の修驗 七七

第二節 多彩な民間信仰 七七

一 御師と伊勢講／伊勢講の運営と代参／お
かげ参り 七七

二 もうもろの講集団 七七

三 代参講／念仏講 七七

第一節 信仰のすがた 七七

一 伊勢講のひろがり 七七

二 文字と民衆／寺子屋の成立と普及／寺子
屋での学習 七七

第一節 信仰のすがた 七七

一 伊勢講のひろがり 七七

二 文字と民衆／寺子屋の成立と普及／寺子
屋での学習 七七

三 代参講／念仏講 七七

四 藩 學 七七

達道館の設立／小諸藩明倫堂／田野口藩
の尚友館／牧野花紅と大給恒

の活動／郷土史へのめざめ

三 諸学の展開

二 俳諧・和歌

八〇

一 敬忠と好謙

立羽流俳諧と瀬下閑鷗／立羽流から五色
墨派へ／吉沢鶏山蕉風俳諧と門人／春秋

庵白雄と佐久俳壇／小林葛古と幕末佐久
俳人／連歌・和歌・狂歌

第五節 地方文人と文芸

三 都からの文化

八三

一 文人の往来と文雅／亀田鵬斎の佐久来
遊／大梅と道本／その他の文教工芸

二 文政と天保の飢饉

二 文政の凶作／天保の飢饉

八一

第三編 近世後期

第一〇章 村の変貌

第一節 災害と飢饉

八元

一 浅間山の大噴火と天明の飢饉

八元

連続する不作と水害／浅間山の大噴火／
天明の飢饉

天明の飢饉

第二節 豪農と貧農

一 地主の成長と村

八六

村々における地主の土地占有／志賀村と 地主／下平尾村の困窮／野沢村並木七左 衛門の村政関与／並木新田	四 水車屋.....	九九
二 貧農の生活と小作..... 凶作と貧農／小作百姓の生活／潰れ・欠 落と百姓株の維持／小作米滯りと小作出 入	五 手工業..... 六 諸職人..... 紺屋／製瓦業／前山焼き 職人の増加／職人仲間と手間賃	九三 九七 九九
三 新子田村小作地返還闘争..... 返還闘争の概要／新子田村の実態	八九	
第一一章 貨幣・商品経済の進展		
第一節 農間稼ぎと手工業..... 一 養蚕の発達..... 前遣いの養蚕／商品としての繭生産／ 繭仲買人と蚕種業	八五	
第二節 諸産業の拡大..... 一 専業化する諸業..... 企業的動き／鉱業への進出	九三	
二 米の流通..... 一 米の流通と市場／地主と仲買人 三 商人の郡外進出..... 商人の江戸進出／大和屋の經營／信州屋 蕎麦店／商人と宮・門跡	九五	
第三節 交通運輸の変貌..... 一 中山道の交通運輸..... 繼立ての実態／交通量の増加／宿・助郷 出入／負担に苦しむ助郷村々／休役・代	九七	
三 酒造業..... 源助びるも／水田養鯉	九〇	
酒造統制／酒造仲間／酒造の実態		

助郷／加宿・増助郷／加助郷・当分助郷

／助郷制度の破綻

政と御用達

二 岩村田宿刎錢騒動 九七

刎錢／刎錢割り渡し要求の展開／彈圧と

直訴闘争／刎錢騒動と赤壁

第二節 田野口藩の財政窮乏 100
田舎財政

一 藩財政の改革 100

御用達と藩財政／寛政の財政改革／仕送

三 交通運輸の諸相 六七

駄賃稼ぎと入山道／日影新道と岩村田宿

／つぶされた八郡新道

二 藩財政の窮乏 103
藩財政

御用達の行き詰り／文政期の藩財政と諫訪

岩波家／天保以後の藩財政

第一二章 動搖する領主支配

第一節 岩村田藩の財政窮乏 九九

第三節 幕府領の施政 109
幕府領

一 寽政の改革 109

寽政の諸政策／代官教諭書

二 化政期の改革 109

信濃国取締役と取締出役／取締役制

三 天保の改革 109

二 藩借財の累増 103

増える出費と藩の対応／八田家と岩村田

藩財政／高まる御用達などへの依存／神

津半右衛門と岩村田藩／弘化三年の藩財

第一節 天明の上州・信州打ちこわし [二〇]

一 天明三年上州・信州打ちこわし [二〇]
打ちこわしの経路／打ちこわしの被災

者／打ちこわしと「眞の一揆」

二 騒動の鎮圧と取り締まりの強化 [一八三]
打ちこわし勢の解体と逮捕者／取り締ま

りの強化／天明六年の凶作と領主の対応
和宮の降嫁／水戸浪士の通過

第二節 騒動のひろがり [一九四]

一 幕府領の動き [一九四]
文化十年の騒動／文政の上州騒動／越

訴・直訴
二 根々井騒動 [一〇三]
代官大塚氏の同族争い／代官制の改革／
二つの橋

三 田野口領の投訴騒動 [一〇六]
投訴の経過／訴人の追及／前嶋発多

第一四章 開港と幕藩制支配の解体

第一節 政局の破綻 [一二五]

一 開港と攘夷 [一二五]
黒船の渡来／安政の大獄

二 政局の転換 [一二三]

三 長州征伐 [一二四]
第一次征長／第二次征長
和宮の降嫁／水戸浪士の通過

第二節 幕藩体制の変化 [一五〇]

一 諸藩の改革 [一五〇]
領主の幕政参与／田野口藩の軍制改革／

岩村田藩の軍制改革／小諸藩の軍制改
革／新城下の造成／藩政の変化／藩財政
の窮迫

二 幕府の非常防備策 [一七三]
郡中取り締まり体制／兵賦と農兵／御影

役所の施政／根々井知行所の動向

二 富農と草莽 二五六

第三節 開港後の経済変動 二〇〇

富農層の動向／角田忠行の活動／水野丹波と前期平田学派

一 産業の進展 二〇〇

新産業の導入／蚕糸業の進展

索引
件名

二 商業の進展 二〇〇

農産物の商品化／蚕種商い／江戸商いの

付録

展開

三 蘭糸商いと貿易 二六六

蘭商い／生糸商い／貿易の開始／生糸・

度量衡・通貨・方位・時刻

四 社会構造の変化 二三三

佐久市志関係者名簿
佐久市志刊行会

佐久市志刊行会運営委員会

歴史編(三)近世 編纂関係者

歴史編(三)近世 執筆者名簿

歴史編調査員名簿

歴史編史料提供者名簿

刊行会事務局

教育委員会事務局

編集後記

編纂副委員長

木内

寛

第四節 世直し情況の進行 二四三

一 民衆の抵抗 二四三

佐久市志関係者名簿